ホタル

今年も暑い夏になりそうですね。でも、暑い夏だからこそ、夕涼みに出かけながら、ホタルを見に行きませんか。涼しげな川のほとりに、静かに光るホタルの光。美しい里地・里山・里水がすぐそこにある都留市だからこそ、この美しい光が夏に乱舞するのです。

夏の風物詩ともいえるホタルは、古来から親しまれており、古くは「日本書紀」にその記述がみられます。また、「源氏物語」などの作品や、日本最古の歌集「万葉集」にも詠まれるなど、私たちに非常に身近な生き物だと言えます。

本市では、水質がとても良い河川が多いため、昔から市域のいろいろな場所でホタルが見られたといいます。しかし、昨今では河川環境の変化などにより、その姿を見られる場所は減少しつつあります。

ホタルが生息するには、きれいな河川環境が不可欠です。美しいホタルを、後世に残して行きましょう。

ホタルの生息地

市内には、ホタルの生息する河川がいくつもあります。昔に比べれば、その数はかなり減っているようですが、時期さえ逃さなければその美しい姿を見ることができます。

今回の表紙の写真は、十日市場の上水道第一水源地付近で昨年撮影したものです。ここは、清水が湧きでており、水質については申し分ありません。また、河川もコンクリート整備などが施されておらず、昔のままとなっています。こうした場所には少なからずホタルが生息しているものと思います。ここで、昨年ホタルの生息が確認できた場所をいくつかご紹介したいと思います。

○十日市場地区水源地

水源地から流れ出る川沿いです。10年ほど前までは非常に個体数が多く、「うら山観察会」による観察会なども行われていました。近年、数が減少傾向にありましたが、昨年は地元の方々の取り組みによって、多くのホタルが飛びました。

○小形山地区古宿

現在も観察会が行われているホタルの生息地です。こちらは数年前までは、驚くほどのホタルの大発生が見られました。しかし、近年は数が減少傾向にあり、また、生息域も下流に移りつつあるようです。

○川棚地区城南橋たもと

川棚自治会有志で構成される、「城南グリーンクラブ」の皆さんの清掃活動などにより、ホタルが少しずつ増えてきているようです。桂川の脇になるのですが、崖から清水が湧きでており、この環境で育ったホタルが美しく舞っています。

○菅野地区菅野大橋下流

ここ数年で非常に増えつつあるポイントです。昨年は大変多くのホタルが飛び交いました。菅野地区に入った時点で、川の上を飛び交うホタルが目につきます。

○宝地区丹沢

宝小学校前から宝鉱山方面に向かって右の道を入って行った奥に、丹沢があります。ここでも毎年ホタルを見ることができます。

この他にも何カ所かホタルが見られるポイントがあります。ぜひこの夏は夜の散歩がてら、でかけてみませんか。

■ホタル生息地の一つ、十日市場地区の水源地。しかし、今年はやはり発生が遅くなっているようで、表紙撮影には間に合いませんでした。

ホタルについてのあれこれ

ホタルについてのお話を、東桂小学校教諭・小口尚良先生にお伺いしました。

―先生の行っている、「うら山観察会」について教えてください。

市内の小学生を対象に、小動物などの観察を季節ごとに行う、大学生を中心とした団体です。毎年、6月下旬から7月上旬にかけて、小形山でホタルの観察会を行っています。私は今もかかわって、事業の調整などを担当しています。

もともとは、都留文科大学の今泉吉晴先生が始めた「ムリネモ協議会」が母体で、1989年から活動を始めました。ホタルの観察会では、発足当初には十日市場の水源地で地元の方々に協力をいただき、開催をしていましたが、現在は尾県郷土資料館協力会の方々に協力してもらって、小形山古宿地区で観察会を行っています。

―ホタルが住むための環境には、どういったものが必要なのですか。

まず、幼虫のエサとなる、「カワニナ」が必要です。カワニナとは、川に住む巻貝です。それから、キレイな水。しかし、完全にキレイな水でもダメなんです。少しは栄養分がなければ、カワニナも住めなくなってしまう。それから、護岸工事がされていないこと。ホタルは土にもぐってサナギになりますので、コンクリートで固められると羽化できなくなってしまいます。

―市内のホタルが見られるシーズンはいつ頃でしょうか。

だいたい、6月下旬から8月上旬頃までだと思います。ただし、今年は少し寒かったので、例年よりも一週間程度は遅れていると思います。

―ホタル観賞で、気をつけなければならないポイントを教えてください。

ホタルは強い光をあててはいけません。強い光は、ホタルのコミュニケーションを阻害する要因になります。車で観賞に行く際も、ライトをつけっぱなしにはしないように気をつけてください。それから、環境を汚さないことです。ゴミなどを捨てていかないようにしてほしいと思います。

―ホタルが増えたり減ったりする原因はどういったことでしょうか。

はっきりとはわかりませんが、環境の変化がきっかけになることは確かです。例えば、小形山地域では、ゴルフ場開発を契機に、河川の改修が行われました。河川がすべてコンクリートになってしまうと、ホタルは羽化できません。このため、地元の方々が事業者に働きかけをしたところ、既存の河川の流れを残す工法で河川整備をしていただいたようです。その後、かなり多くのホタルが飛び交うようになりました。

―では最後に、ホタルを守っていくために気をつけたいことをきかせてください。

各地で河川にホタルをよみがえらせようと、いろいろな取り組みがされていますが、少なくなったホタルをよみがえらせるために、ちがう地域からホタルや幼虫、また、エサとなるカワニナを持ってきて放流するということをしている事例を見ます。実はこれはよくないことで、ホタルやカワニナは、地域固有の遺伝子を持っており、その遺伝子は、昔から綿々と受け継がれてきた、その環境に合わせた遺伝子なのです。ここによその地域の遺伝子を持つホタルを加えることは、その環境に昔からいたホタルが、いなくなってしまう可能性もある行動なのです。

それと、河川はホタルだけのものではないということです。ホタルのための河川整備を行ったら、トンボがいなくなってしまった、というようなことのないように気をつけることが大事です。ホタルは、いろいろな生き物が形作る「河川の生態系」の一部分です。バランスよく河川環境を整えていくことが重要だと思います。

ホタル観賞時の注意点

◎強い光を当てない

ホタルは、暗闇で発光して飛ぶ生き物です。

ホタルは、発光によってコミュニケーションを行い、パートナーを探して、翌年のための産卵をします。強い光によってコミュニケーションのとれないホタルが翌年に子孫を残すことは、非常に難しいのです。

◎ホタルを捕獲しない

成虫になったホタルの寿命は約10日といわれています。少なくなってきている生き物なので、捕まえないように、また手で触れないようにして観察しましょう。

◎静かに観賞しよう

ホタルはとても敏感な生き物なので、静かに観賞するようにしましょう。

また地元住民の方々への迷惑にもなるので、ホタルの生息エリアでは静かに観賞しましょう。

◎ごみのポイ捨ては厳禁

川にごみを捨てるのは厳禁。川が汚れるとホタルが住みにくくなるだけでなく、近隣住民の方にも迷惑行為となるので絶対にやめましょう。